

# 地質ニュース

第466号 1993年6月

## 口 絵

|          |       |
|----------|-------|
| 鳥海火山     | 中野 俊  |
| 雲仙普賢岳の噴火 | 山田スミコ |

|                             |                    |
|-----------------------------|--------------------|
| 鳥海火山                        | 中野 俊・6             |
| 地元住民の見た雲仙普賢岳1990年～噴火活動(その1) | 山田スミコ・18           |
| 有珠山1977年噴火にともなう熱活動          | 松島 喜雄・25           |
| 音波探査により発見された首都圏の潜在活断層       | 杉山 雄一・遠藤 秀典・33     |
| 日本水紀行(4)甲信越地域の名水            | 島野 安雄・永井 茂・42      |
| 日本地質アトラス第2版(全面改訂新版)の出版      | 日本地質アトラスの研究グループ・53 |

|                      |          |
|----------------------|----------|
| 地質相談所からみた1992年度      | 62       |
| 地質標本館だより             | 64       |
| 中国・四国地域地質センター閉所のお知らせ | 61       |
| 学術シンポジウムのお知らせ        | 67       |
| 編集後記                 | 磯部 一洋・68 |

## 表 紙

雲仙普賢岳第10溶岩とドームの湧き出し口の表面構造：  
雲仙普賢岳では、1993年2月初めから第10ドームが成長を始めていた。このドームは、それまでにできたドームの上に出現したために、いろいろな方向から見えるようになった。2月20日に、火口の西約1.3 kmにある妙見岳展望台に登ったところ、平地からは見えなかった溶岩の湧き出し口の様子がよく見えた。今回の一連の普賢岳の溶岩でよく見られる花びら状構造は、溶岩が外側に向かって流動していく過程で、表面付近の溶岩が広げられ、引きはがされてできたものであることを地質調査所の研究者から聞いたばかりであったのであるほどと思った。溶岩は湧き出し口を中心に放射状に引き裂かれ、さらに、それぞれが縦横に広げられていた。まるでスルメを裂いたときのように糸を引いているものまでである。普賢岳では、このようなきれいな模様は噴出活動が活発なときによくみられる。 1993年2月20日撮影。  
(文・写真：山田スミコ)

通商産業省  
工業技術院

## 地質調査所

〒305 茨城県つくば市東1-1-3

Tel. 0298-54-3520, Fax. 0298-54-3533

Geological Survey of Japan